研究業績説明書【記述例】

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号	1	学部・研究科等名	文学部

1．学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】

＜＜「人と社会（社文系）の科学」に関する研究業績の判断基準＞＞に則り、「学術面」のSSをタイプA～タイプEの5つのタイプの判断基準で、同じくSをタイプF～タイプJの5つのタイプの判断基準で、また、「社会、経済、文化面」のSSをタイプK～タイプNの4つのタイプの判断基準で、同じくSをタイプO～タイプQの3つの判断基準で、それぞれ選定した。人文系の研究領域ということもあり、実に多種多様な国内外の雑誌、国内外の様々な賞、さらには、人文系の特徴でもある「著書」としての出版など、業績成果の形態が多岐にわたるが、雑誌の国内での位置づけ、国際雑誌としての位置づけ、賞の位置づけ、個人の研究の総まとめとしての著書についての第三者評価などを含め、＜＜「人と社会（社文系）の科学」に関する研究業績の判断基準＞＞に則り、厳正に選定した。

2．選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等）【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
1			縮小的地域社会理論の可能性についての研究 日本の人口推移とそれに伴う社会変動を明確にすることと、人口減少を前提とした社会システムの構築をめざした「縮小論的社会論」を展開した。明治期から平成期までの人口増加は、異常ともいえる人口爆発であり、その間に形成された「人口増加型パラダイム」が、現在の日本社会の在り方を歪めていると判断した。特に、経済界が、人口増加と世帯と家族の分離化で、経済成長を行ったため、その成功モデルから離脱ができないと論じた。	「縮小論的地域社会理論の可能性を求めて」、『世代と移動の都市社会学』（日本都市社会学会年報28）、2010、 pp. 27～38		SS	『西日本社会学年報』の書評や、各専門誌に引用された回数が多い。また、内閣府行政改革機構の『国家および行政の在り方の懇談会』に招聘され、資料の提示とともにパラダイム転換の必要性を論述してきた。		
2			視聴覚音声知覚への加齢の影響 話者の顔を見ながら声を聴く視聴覚音声知覚において、口唇などの調音器官の視覚的運動情報が音声の聞き取りに影響を及ぼすことが知られている。本研究では、こうした視覚情報の影響が、加齢による聴力低下がみられる高齢者において、若年者よりも増大するのではないかという仮説のもとに、60～65歳の高齢者と大学生を比較する実験をおこない、仮説を支持する結果が得られた。	"Enhanced audiovisual integration with aging in speech perception: A heightened McGurk effect in older adults", *Frontiers in Psychology, Language Sciences* (2014), Pages 1-12. doi: 10.3389/fpsyg.2014.00323	S		国際的に卓越した学術雑誌の査読に通った論文である（Impact Factorは2014年中につく予定）		
3			高齢者のワーキングメモリと運動能力の相関関係 顔、位置、数字の情報に関するワーキングメモリ（WM）と歩行課題及び手指巧緻性課題で測定した運動能力との相関を検討。顔と位置のWMは目標志向的な歩行の速度と有意に相関したが、数字と歩行との相関は見られなかった。手指巧緻性とはいずれのWMも相関を示さなかった。つまり、数字のような音韻的符号化による記憶ではなく、顔や位置のような視覚的符号化によるWMが、身体移動と共通した処理をもつことが示唆された。	"Visually encoded working memory is closely associated with mobility in older adults", *Experimental Brain Research* (2014), 2035-2043. DOI: 10.1007/s00221-014-3893-1	S		国際的に卓越した学術雑誌の査読に通った論文である（IF = 2.221）		

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
4			聴触覚間の相互作用は頭の周りの空間や身体部位を越えて成り立つ 聴触覚間の相互作用は頭周辺の空間や身体部位に限られるという一般見解を、刺激を提示する空間や身体部位及び両者の位置関係を操作し、触覚刺激が身体の左右どちらに提示されたかの干渉効果を検討。身体部位やその位置に限らず、音による干渉効果が広範囲に見られ、手背は手掌などの身体部位よりも音の干渉を受けやすい、音源が耳のすぐ後ろの方が遠い音源よりも触覚判断との干渉を引き起こし易いなどが分かった。	″Audiotactile interactions beyond the space and body parts around the head″, *Experimental Brain Research* (2013), 228, 427-436. DOI: 10.1007/s00221-013-3574-5	S		国際的に卓越した学術雑誌の査読に通った論文である（IF = 2.221）		
5			人口減少・少子高齢化の限界集落と家族の関係についての研究 人口減少・少子高齢化の限界集落でも、暮らす住民がいる限り定住基盤要件が存在する。その拡充こそが小規模・高齢化集落の維持・存続に繋がる。近距離他出者の存在が重要である、すなわち「家族と世帯は異なり、世帯が極小化しても家族は空間を超えて機能している。この理論モデルを通して、2013年に東日本震災地の石巻市でT型集落点検を行い、2014年には熊本県多良木町で7年間休校していた槻木小学校を再開校させた。	「現代の家族と集落をどうとらえるか」、徳野・柏尾（共著）『家族・集落・女性の底力―限界集落論を超えて―』（農文協、2014）、pp. 1-224.		S	読売新聞、熊本日日新聞、宮崎日日新聞など、マスコミ各紙に著書が紹介されるとともに、槻木小学校の再開校に関して、朝日・毎日・読売・熊日・西日本などの新聞各紙が記事を報道した。また、NHK総合『おはよう日本』はじめ、民放各社も全国放送で本書を扱った。相川地区のT型集落点検は、NHK総合の『復興サポート』で全国放送された。		
6			視野の左右を反転させる眼鏡の着用に生じる適応的変化、及び知覚的順応と脳活動の変化の関係 逆さ眼鏡着用に伴う適応的変化及び知覚的順応と脳活動の関係を調べた。視-運動課題で2週間頃から、触-視覚課題で3週間頃から順応が、37日目眼鏡を外した際残効がみられた。聴-運動課題では、触-視覚課題での順応に伴い一過性の順応変化があったがすぐに消失、触-運動課題では知覚的順応も残効もなし。fMRIでは、触-視覚課題での変化に連動して、半視野に示された視覚刺激への1次視覚野の活動変化があった。	″Visuo-somatosensory reorganization in perceptual adaptation to reversed vision″, *Acta Psychologica*, (2012), 141, 231-242. doi:10.1016/j.actpsy.2012.05.011	S		国際的に卓越した学術雑誌の査読に通った論文である（IF = 2.206）		

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
7			音楽家と非音楽家における第2言語の音声知覚能力の比較研究 音楽家は非音楽家に比べて、第2言語の音声知覚において優れた能力をもつかどうかを、オランダ語と日本語の比較研究によって調べた。日本語母語、オランダ母語の音楽家と非音楽家の計4群に、日本語子音とオランダ語母音の質的特徴に関して、同定判断と弁別判断を求めた。音楽家は非音楽家に比べて第2言語のみならず第1言語においても優れた成績を示し、それは日本語の促音「っ」の知覚に関して最も顕著に表れた。	″Enhanced perception of various linguistic features by musicians: A cross-linguistic study″, *Acta Psychologica* (2011), 138: 1-10. DOI: 10.1016/j.actpsy.2011.03.00	S		国際的に卓越した学術雑誌の査読に通った論文である（IF = 2.206）		
8			現在の日本の農業・農村・食糧問題について社会学の立場から論じた研究 社会学の立場から現在の我が国の農業・農村・食糧問題について本格的に論じた専門書である。従来の農学部的な農業・農村・食糧問題については経済原理が軸となるカネ・モノ的領域の研究に対し、本書は、人間の生命・生活原理を軸とする視点から、「人間が作って、人間が食べて、生活している」と云う生活農業論的パラダイムを軸に、我が国の農業論を再構築していこうと云う14章からなる農業理論である。	『生活農業論―現代日本のヒトと「食と農」』、学文社、2011、416頁	S S		朝日・毎日・西日本・熊日等の各紙に書評掲載された。また、「社会学評論」での本書の書評のリプライ論文を掲載されるとともに、『村研年報』の研究動向や『日本社会分析』の書評等もなされた。専門雑誌での引用も数多くある。平成23年度の熊日の「熊本文化出版賞」の候補にノミネートされた。		
9			ケニアにおける＜先住民＞の政治的アイデンティティに関する研究 国立民族学博物館の共同研究 「『政治的アイデンティティ』とは何か？――解放運動としての先住民運動」（代表：太田好信）の研究成果と して出版された研究書であり、筆者はケニアにおける＜先住性＞が歴史的なものではなく政治的に作り上げ られていることをキベラ（ナイロビのスラム）の主と呼ばれるスーダン出身の「ヌビ」の人びとに焦点を当	「キベラ・レッスン――ケニアにおける土着性とヌビのアイデンティティ」、太田好信（編）『政治的アイデンティティの人類学―21世紀の権力変容と民主化にむけて』、東京：昭和堂、2012、pp. 78-133（第2章）	S		文化人類学の拠点の一つである国立民族学博物館の共同研究の成果である点（基準「A」に相当）、そしてこの著作（慶田の論文にも言及してある）が日本文化人類学発行の雑誌『文化人類学』（第73巻第3号 2013年12月）の書評で評価されていること、そしてこの業績は科学研究費等の採択に寄与していること。		

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
10			社会システムの時間性の研究 「コミュニケーションはつねに何ものかのコミュニケーションとしてしかありえない」という、コミュニケーションの現象学的志向性の発見にもとづいて、生成的実在としての自己準拠的な社会システムの時間構成を、理論的に解明するものである。さらに近代社会の時間性の主題化過程を、ヴェーバー、デュルケム、ジンメル、シュッツら社会学者たちの収斂史として示し、従来とは異なる社会学史の新しい解釈も提示するものである。	『社会的世界の時間構成――社会学的現象学としての社会システム理論』、ハーベスト社、2013	S		日本社会学史学会奨励賞（2014年度）受賞		
11			倫理学理論に関する新しい方向性を示す研究 規範倫理学の諸理論を、従来の分類枠組みに加えて新しく複数の分類の枠組みを組み合わせることによって、倫理学理論の新しい理解の方向性を示した。	『文脈としての規範倫理学』、ナカニシヤ出版、2012		S	（1)玉川大学学術研究所人文科学研究センターH25年度第一回公開研究会（2013）に招聘され、本書の内容に関する講演を行った。（2)『倫理学研究』第43号（関西倫理学会、2013）に佐々木拓氏による書評が掲載された。（3)『社会と倫理』第28号（南山大学社会倫理研究所、2013）に安彦一恵氏による書評が掲載された。		
12			「地域の記憶、世界の遺産」をテーマにした、三池炭鉱遺構についての研究 2011年度、2013年度実施の社会調査実習の事例報告（依頼論文）。荒尾市・大牟田市に現存する三池炭鉱遺構について「地域の記憶、世界の遺産」をテーマに、社会調査実習の実施形態やその意義について論じ、報告したもの。三池炭鉱遺稿に関する調査は世界遺産化をめぐる問題によって注目され、調査に関する記事が熊本日々新聞、朝日新聞、毎日新聞等に掲載、2013年度には社会調査士協会から助成金を授与された。	「炭鉱（ヤマ）の声を聞く－熊本大学文学部の社会調査実習」、『社会と調査』（社会調査士協会）、第12号（2013） pp. 90-95	S		社会調査士協会が発行する『社会と調査』は「Aの規準」（全国レベルの協会）を満たしている。また、社会士協会より本社会調査実習に対して助成金が授与され、『社会と調査』における事例報告として評価され、原稿執筆を依頼されている。さらに、複数の全国版、地方版の新聞を中心としたメディアに取り上げられ、荒尾市・大牟田市との社会的連携を強化した。		

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
13			明初里甲制体制の形成過程に関する研究 明朝国家が組織した里甲制は，中国史上最も総合的な統一的人民編成であり，前代にはない機能と特質を具えていた。それは，どのような過程を経て形成されたのか。南宋・元代の郷村における社会的結合＝義役の結合原理と歴史的展開，里甲制体制を支える政治的イデオロギーの歴史的由来を探り，里甲制体制の形成過程とその歴史的性格を論じる。宋代以来の歴史的視角から明初里甲制体制の形成と性格を追究する初の試みである。	『宋元郷村社会史論——明初里甲制体制の形成過程——』、汲古書院、2010	S S		中国史研究の分野では異例なことに，国内外で計6本の書評が発表されている。掲載誌は日本の歴史学界を代表する全国学会誌と研究所の機関誌である。評者も日本を代表する宋代史研究者・明清史研究者であり，いずれも従来にはない独創的，かつ体系的な成果と高く評価されている。さらに，中国の国家シンクタンクの新聞でも書評が掲載され，海外の注目すべき成果として高く評価されている。		
14			足尾銅山鉱毒事件について、水俣病事件、福島第一原発事件など現代的問題の視点から論じた研究 東日本大震災と福島第一原発事件を水俣病事件と比較するだけでなく、120年ほど前の足尾銅山鉱毒事件を原点に3者を比較検討し、背景には近現代日本を貫く経済成長第一主義が存在することを指摘。今日的観点からすれば、足尾銅山鉱毒事件に反対した被害民の運動は、日本で最初の環境保護運動、所有権よりも生存権が尊重される社会を希求した運動であり、環境的正義・倫理的正義を主張した運動であったと言える。	「足尾銅山鉱毒事件の歴史的意義——足尾・水俣・福島をつないで考える」、『震災・核災害の時代と歴史学』（歴史学研究会編）（青木書店、2012）、pp. 65-79	S S		歴史学会ではトップクラスの学術誌である『歴史学研究』（903号、2013）および『史学雑誌』（121編第11号、2012）で、学界一流の研究者によって書評され、高く評価されている。また、日本経済評論社のPR誌『評論』188号でも紹介されている。		
15			縄文時代のコクゾウムシ属圧痕の発見とその意義についての研究 鹿児島県種子島の三本松遺跡から日本最古のコクゾウムシ属甲虫の圧痕を検出し、その形態的特徴およびコクゾウムシ属甲虫の生態的特性から、縄文時代集落に貯蔵されたクリやドングリなどのデンプン質食料を加害した害虫であると特定した。この縄文時代の食料害虫は考古資料としては世界最古のものであり、農耕発生以前に人と密接に関係した害虫が存在したことを明らかにした。	"A New Light on the Evolution and Propagation of Prehistoric Grain Pests: the World's Oldest Maize Weevils Found in Jomon Potteries, Japan", 電子科学ジャーナル PLoS ONE (http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0014785)	S S		掲載されたPLoS ONEの2011年のインパクトファクターは4.092である。		

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
16			日本および周辺アジア諸国における植物種実や昆虫資料を基にした植物利用史の研究 考古遺跡から検出される炭化種実や土器圧痕（種実・昆虫）資料を収集し、その同定基準の見直し、出土資料の再検討などを行い、縄文～弥生時代の植物利用と栽培植物の起源と展開について論述した。縄文時代におけるダイズやアズキの栽培の開始の検証はこれまでの学史を大きく書き換えるものである。日本国内だけでなく、ロシア、中国、朝鮮半島などの資料も加えた広い視野のもとに東北アジア先史時代の栽培史を捉えた。	『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』, 同成社、2011、311 pp.	S S		第25回浜田青陵賞（2012年9月30日　朝日新聞・岸和田市）、第6回九州考古学会賞（2012年11月24日　九州考古学会）、第3回日本考古学協会奨励賞（2013年5月25日　日本考古学会）を受賞した。これらはいずれも権威ある賞であり、中でも浜田青陵賞は考古学の芥川賞と言われ、非常に権威のある賞である。		
17			中国経済の構造と発展に関する研究 1970年代までの通説であった中国封建制論を根本的に批判して専制国家という中国の構造的特質を明ら かにし，そのうえで小経営農業の小ブルジョア的発展，国家財政と貨幣の特質，商業流通と経営のあり方など，明清時代以降の経済の発展の諸相を実証的に究明する。その結果，資本主義的農業の制約，貨幣経済論，中間団体論（ギルド論）など，かつての通説的理解が克服される。	『明清中国の経済構造』、汲古書院、2012	S S		中国研究所『中国研究月報』67-3，2013において長大な書評論文として書評され、また全国学会誌『社会経済史学』（2013）において書評され、70年代以降の中国社会経済史研究を代表する研究成果であり，明清史研究だけでなく中国史研究者・東アジア史研究者必読の研究文献であるときわめて高く評価されている。		
18			カロリング期大所領周辺の自営農民についての研究 西欧中世初期社会の規定要因を大所領を経営する領主に求める大所領モデルと、自有地で生活する自営農民に求める自有地モデルの対話・止揚をめざして開かれた国際研究集会での報告を論文にしたもの。カロリング期修道院から土地を保有し、その領主制に服しながらも一定程度の自主性・独立性を維持した農民が存在したこと、彼らの自主性が手工業の兼営、商品・貨幣流通との接続、森林資源の活用等に支えられていたことを論じた。	″La paysannerie indépendant et autonome à côté du grand domaine carolingien″, *Revue belge de philologie et d'histoire*, 90（2012）, pp.347-360	S		2010年5月6～8日にブリュッセル自由大学で開かれた研究集会 Autour de Yoshiki Morimoto : les structures agricoles en dehors du monde carolingien. Formes et genèse （プログラムは http://calenda.org/200978 を参照）での報告をもとにしており、ベルギーの著名な雑誌に研究集会特集として査読つきで掲載された。		

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
19			弥生時代から古墳時代の社会的転換期における装身具についての研究 弥生時代から古墳時代の社会的転換期において、弥生文化の装身具がその役割を呪具から威信財に変化させてゆく状況を、南島産巻貝製腕輪を通して実証的に論じた。すなわち、弥生時代終末期に、貝製腕輪の消費地が九州から西日本に移行し、古墳時代前期には近畿地方に移ってヤマト政権の威信財となり、やがて材質が貝殻から青銅、碧玉に変化することを示し、これが地域間の勢力関係、価値観、交易ルートの変化に連動すると論じた。	「装身具から威信財へ」、『弥生時代の考古学4　古墳時代への胎動』（同成社、2011）、pp.171-189	S		・掲載書は、考古学では特に優秀な水準とされる全集である。 ・学会において当該業績に関わる招待講演・基調講演をおこなった。 ・当該業績が科学研究費補助金の採択に寄与した。		
20			弥生文化成立期における装身具研究 弥生文化の成立期に、それぞれ由来を異にする3種類の装身具が階級社会に適応して変化し定形化してゆく状況を、北部九州地域において実証的に論じた。すなわち、伝統的勾玉が素材・形態において特権階級の装身具になること、新来の管玉が新たな技術を適応させて普遍化すること、独創的文物である南島産貝製腕輪が形態変化を繰り返しながら農耕祭祀の呪具となる過程を実証的に示し、社会変化に連動弥生時代の装身具の本質を論じた。	「装身具」、『日本の考古学6　弥生時代（下）』（青木書店、2011）、pp.296-315	S		・掲載書は、考古学では特に優秀な水準とされる基礎的全集である。 ・学会において当該業績に関わる招待講演・基調講演をおこなった。 ・当該業績が科学研究費補助金の採択に寄与した。		
21			豊子愷と漱石、ハーンの比較研究 中国近現代の作家・画家豊子愷の文学を夏目漱石とラフカディオ・ハーンとのかかわりから論じたものである。豊子愷が漱石やハーンから受けた影響を検討しながら、三者の作品の読解を深め、日中の近代における彼らの文化史的位置づけにも踏み込んだ。	『響きあうテキスト――豊子愷と漱石、ハーン』、研文出版、2011. 327 pp.	S		全国学会（日本比較文学会）誌『比較文学』（第54巻、2012）、で書評が掲載され、高く評価された。また、『熊本日日新聞』（2011年7月10日付）朝刊にて中国文学の第1人者である藤井省三氏（東京大学教授）による書評が掲載され、ここでも高い評価を受けた。		

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会、経済、文化的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
22			英語俳句の言語的・表現的特徴についての研究 現代英語による俳句でどのような言語的・表現的試みがなされているかについての研究で、その分析視点の中心に、語と語の連結（collocation）の問題に焦点を当てている。270の俳句を対象にそのようなcollocationの視点から分析すると、現代英語俳句が20世紀の英語俳句と根本的に異なる点は、連結する語と語の間の意味的乖離・分裂にあることを多くの例示によって証明している。	*The Disjunctive Dragonfly, a New Approach to English-Language Haiku* 、Winchester, VA, USA: Red Moon Press, 2013	S		国際的ジャーナル機関であるThe Haiku Foundation賞授与委員会 からTouchstone 2013 Distinguished Book Awardを受賞した。また、The Haiku Foundationをはじめ、複数の国際的ジャーナル（A Hundred Gourds, Frogpond Journal of Haiku）で書評され、いずれにおいても高く評価されている。		